

# 「学生による授業評価」— コア教養科目アンケート結果

本年度前期に実施した「学生による授業」のデータがまとまりました。コア教養科目のデータを紹介します。

## データの見方

質問C あなたのこの授業の欠席回数は？ (C1 欠席なし, C2 欠席1回, C3 欠席2回, C4 欠席3回, C5 欠席4回以上)

質問D あなたはこの授業の理解修得のために予習・復習を含めて努力をしましたか？ (D1 かなり努力した, D2 ある程度努力した, D3 どちらとも言えない, D4 あまり努力しなかった, D5 ほとんど努力しなかった)

質問E あなたがこの授業を履修して良かったと思うことは？ (複数回答可) (E1 授業内容が今後につながるものだった, E2 授業内容の構成が適切なものだった, E3 授業を通して調べる姿勢を獲得した, E4 授業の準備が周到になされていた, E5 授業を通して考える力を培った, E6 授業に双方向性があった, E7 授業に能動的な姿勢で参加した, E8 教師に教育者としての熱意を感じた, E9 勉学への動機づけが高まった, E10 学者・研究者との出会いがあった, E11 その他 (内容は裏面に記入))

Ea 計は, E1・E3・E5・E7・E9の回答率の合計, Eb 計はE2・E4・E6・E8・E10の回答率の合計。

## コア教養科目の質問C・D・Eの回答率及びE a計とE b計

	C1	C2	C3	C4	C5	D1	D2	D3	D4	D5	E1	E2	E3	E4	E5	E6	E7	E8	E9	E10	E11	Ea 計	Eb 計
人間と文化	79.0	17.7	3.2	0.0	0.0	1.6	19.4	24.2	21.0	32.3	21.0	6.5	6.5	6.5	24.2	1.6	9.7	21.0	1.6	4.8	0.0	63.0	40.4
	72.7	19.3	6.8	1.1	0.0	3.4	26.1	28.4	21.6	17.0	22.7	18.2	8.0	6.8	33.0	1.1	3.4	13.6	10.2	9.1	0.0	77.3	48.8
	64.0	20.0	16.0	0.0	0.0	8.0	32.0	24.0	20.0	16.0	24.0	20.0	12.0	24.0	44.0	4.0	8.0	16.0	12.0	16.0	0.0	100.0	80.0
	51.4	29.7	10.8	2.7	5.4	8.1	37.8	27.0	13.5	10.8	24.3	16.2	5.4	5.4	32.4	5.4	8.1	16.2	8.1	8.1	5.4	78.3	51.3
	83.1	13.8	1.5	1.5	0.0	6.2	35.4	16.9	20.0	20.0	13.8	12.3	4.6	7.7	40.0	0.0	3.1	13.8	4.6	0.0	4.6	66.1	33.8
計	72.9	19.1	6.1	1.1	0.7	4.7	28.9	24.2	19.9	20.2	20.6	14.1	6.9	8.3	33.6	1.8	5.8	15.9	6.9	6.5	1.8	-	-
文芸と人間	66.3	12.6	6.3	5.3	7.4	6.3	11.6	22.1	20.0	33.7	20.0	9.5	8.4	10.5	7.4	2.1	2.1	22.1	8.4	1.1	1.1	46.3	45.3
	76.6	15.6	5.2	1.3	1.3	5.2	33.8	18.2	23.4	16.9	35.1	16.9	33.8	28.6	32.5	0.0	6.5	45.5	18.2	2.6	7.8	126.1	93.6
	58.8	19.6	11.8	7.8	0.0	2.0	17.6	15.7	23.5	33.3	35.3	23.5	5.9	13.7	15.7	9.8	11.8	25.5	5.9	7.8	7.8	74.6	80.3
	67.0	25.5	6.4	1.1	0.0	4.3	1.1	16.0	17.0	53.2	24.5	8.5	3.2	12.8	28.7	6.4	9.6	20.2	12.8	2.1	5.3	78.8	50.0
計	67.8	18.3	6.9	3.5	2.5	4.7	14.8	18.3	20.5	35.3	27.4	13.2	12.6	16.1	21.1	4.1	6.9	27.8	11.7	2.8	5.0	-	-
歴史の認識	60.5	25.6	7.0	4.7	2.3	0.0	4.7	11.6	16.3	62.8	20.9	9.3	2.3	20.9	11.6	2.3	2.3	18.6	4.7	2.3	7.0	41.8	53.4
	61.8	18.2	9.1	1.8	9.1	3.6	27.3	23.6	21.8	18.2	23.6	5.5	23.6	5.5	20.0	9.1	10.9	16.4	12.7	1.8	1.8	90.8	38.3
	61.6	18.1	10.1	5.8	1.4	0.7	5.1	26.1	10.9	46.4	34.8	22.5	1.4	16.7	30.4	2.9	4.3	14.5	8.0	1.4	0.0	78.9	58.0
	63.2	26.3	10.5	0.0	0.0	0.0	10.5	10.5	26.3	47.4	21.1	26.3	0.0	5.3	15.8	5.3	15.8	0.0	5.3	5.3	0.0	58.0	42.2
計	61.6	20.0	9.4	4.3	3.1	1.2	10.2	22.0	15.3	43.1	29.0	16.9	6.3	14.1	23.9	4.3	6.3	14.5	8.2	2.0	1.6	-	-
異文化の理解	74.6	13.4	6.7	3.7	0.7	2.2	3.7	14.9	14.2	57.5	22.4	12.7	0.0	26.9	14.2	9.0	7.5	9.7	3.0	2.2	6.7	47.1	60.5
	64.3	19.4	9.2	4.1	0.0	4.1	30.6	21.4	19.4	17.3	27.6	23.5	0.0	15.3	20.4	5.1	6.1	34.7	10.2	4.1	5.1	64.3	82.7
	69.7	15.8	6.6	2.6	5.3	7.9	39.5	19.7	11.8	14.5	14.5	13.2	2.6	30.3	14.5	1.3	5.3	39.5	3.9	6.6	1.3	40.8	90.9
	78.8	12.9	5.9	2.4	0.0	2.4	20.0	23.5	30.6	16.5	22.4	11.8	4.7	22.4	14.1	4.7	3.5	29.4	2.4	7.1	3.5	47.1	75.4
計	72.0	15.3	7.1	3.3	1.3	3.8	20.9	19.3	18.6	30.3	22.1	15.3	1.5	23.7	15.8	5.6	5.9	26.0	4.8	4.6	4.6	-	-
現代の政治と法	62.4	29.4	5.9	1.2	1.2	4.7	22.4	18.8	23.5	28.2	41.2	14.1	2.4	16.5	25.9	5.9	3.5	4.7	9.4	0.0	2.4	82.4	41.2
	80.0	9.3	8.0	1.3	0.0	2.7	4.0	14.7	14.7	61.3	30.7	13.3	2.7	6.7	22.7	2.7	5.3	20.0	6.7	2.7	8.0	68.1	45.4
	28.6	25.0	14.3	25.0	7.1	0.0	17.9	32.1	14.3	35.7	35.7	10.7	3.6	0.0	25.0	3.6	25.0	7.1	17.9	7.1	14.3	107.2	28.5
計	64.4	20.7	8.0	4.8	1.6	3.2	14.4	19.1	18.6	42.6	36.2	13.3	2.7	10.1	24.5	4.3	7.4	11.2	9.6	2.1	6.4	-	-
現代の社会と経済	84.4	15.0	0.0	0.0	0.7	0.7	2.0	10.9	26.5	54.4	31.3	9.5	2.7	5.4	15.0	2.0	6.8	27.9	9.5	2.7	8.2	65.3	47.5
	71.4	18.4	10.2	0.0	0.0	2.0	6.1	14.3	18.4	59.2	12.2	2.0	2.0	0.0	16.3	8.2	4.1	10.2	4.1	4.1	8.2	38.7	24.5
	60.0	13.3	20.0	6.7	0.0	0.0	26.7	40.0	0.0	20.0	33.3	0.0	0.0	13.3	40.0	0.0	26.7	13.3	20.0	0.0	0.0	120.0	26.6
計	79.6	15.6	3.8	0.5	0.5	0.9	4.7	13.7	22.7	53.1	27.0	7.1	2.4	4.7	17.1	3.3	7.6	22.7	9.0	2.8	7.6	-	-

	C1	C2	C3	C4	C5	D1	D2	D3	D4	D5	E1	E2	E3	E4	E5	E6	E7	E8	E9	E10	E11	Ea 計	Eb 計	
地球と生命																								
	91.4	7.6	1.0	0.0	0.0	1.0	5.7	33.3	12.4	37.1	25.7	22.9	5.7	20.0	9.5	2.9	14.3	17.1	8.6	6.7	0.0	63.8	69.6	
	76.3	14.5	7.9	0.0	0.0	0.0	14.5	15.8	25.0	43.4	60.5	13.2	3.9	17.1	10.5	1.3	9.2	10.5	13.2	2.6	1.3	97.3	44.7	
	71.4	17.5	4.8	6.3	0.0	0.0	11.1	20.6	23.8	41.3	28.6	34.9	4.8	20.6	4.8	1.6	12.7	17.5	11.1	9.5	3.2	62.0	84.1	
	89.7	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	10.3	23.1	17.9	48.7	15.4	25.6	5.1	25.6	10.3	0.0	12.8	0.0	5.1	0.0	5.1	48.7	51.2	
	81.2	13.3	3.0	1.2	0.0	29.7	33.9	15.8	4.8	9.1	61.2	18.8	46.7	23.0	20.0	1.2	15.8	11.5	10.9	0.6	0.6	154.6	55.1	
	82.2	7.8	5.4	3.1	1.6	0.8	6.2	27.1	21.7	38.8	34.1	25.6	4.7	20.2	7.0	2.3	10.1	25.6	5.4	3.9	3.9	61.3	77.6	
計	48.6	21.6	16.2	10.8	2.7	5.4	8.1	24.3	18.9	37.8	32.4	27.0	5.4	29.7	8.1	2.7	13.5	8.1	10.8	8.1	2.7	70.2	75.6	
数理と情報	80.1	12.1	4.6	2.3	0.5	8.6	15.5	22.6	15.8	31.9	41.4	22.8	16.1	21.5	11.4	1.8	12.9	15.0	9.3	3.9	2.0	-	-	
	76.9	17.3	1.9	1.9	1.9	5.8	23.1	26.9	17.3	25.0	30.8	15.4	9.6	13.5	26.9	1.9	3.8	17.3	9.6	1.9	3.8	80.7	50.0	
	75.3	17.8	2.7	1.4	1.4	0.0	26.0	28.8	8.2	31.5	27.4	8.2	5.5	21.9	41.1	4.1	11.0	9.6	12.3	4.1	2.7	97.3	47.9	
計	78.5	13.8	4.6	0.0	0.0	3.1	18.5	20.0	20.0	32.3	15.4	12.3	1.5	20.0	15.4	4.6	3.1	10.8	7.7	3.1	4.6	43.1	50.8	
物質の世界	76.8	16.3	3.2	1.1	1.1	2.6	22.6	25.3	14.7	30.0	24.2	11.6	5.3	18.9	28.4	3.7	6.3	12.1	10.0	3.2	3.7	-	-	
	74.4	20.5	4.3	0.0	0.0	4.3	14.5	24.8	22.2	27.4	28.2	7.7	6.8	23.1	13.7	2.6	6.8	7.7	12.8	9.4	0.9	68.3	50.5	
	79.0	12.3	2.5	1.2	1.2	2.5	11.1	19.8	23.5	35.8	59.3	11.1	3.7	17.3	12.3	4.9	2.5	3.7	21.0	3.7	2.5	98.8	40.7	
	60.9	24.6	7.2	4.3	0.0	2.9	13.0	14.5	23.2	39.1	39.1	15.9	2.9	15.9	29.0	4.3	11.6	14.5	21.7	4.3	0.0	104.3	54.9	
	80.3	8.2	8.2	1.6	0.0	0.0	8.2	24.6	13.1	49.2	37.7	21.3	9.8	27.9	18.0	0.0	9.8	8.2	9.8	3.3	0.0	85.1	60.7	
	77.4	14.8	5.2	0.9	0.9	1.7	4.3	12.2	25.2	47.0	32.2	19.1	3.5	20.0	20.9	0.9	2.6	7.0	7.8	2.6	0.0	67.0	49.6	
計	74.7	16.5	5.2	1.4	0.5	2.5	10.2	19.0	22.1	38.8	37.9	14.4	5.2	20.8	18.3	2.5	6.1	7.9	14.0	5.0	0.7	-	-	
医療と福祉																								
	55.6	17.6	16.7	7.4	2.8	0.9	4.6	22.2	19.4	50.0	56.5	18.5	0.0	19.4	1.9	2.8	4.6	9.3	0.9	4.6	0.9	63.9	54.6	
	72.7	15.7	6.4	3.6	1.2	2.8	4.8	16.5	18.5	52.6	62.7	6.4	1.2	21.3	8.4	2.8	5.2	10.4	10.8	4.4	0.8	88.3	45.3	
	67.5	16.2	9.5	4.8	1.7	2.2	4.8	18.2	18.8	51.8	60.8	10.1	0.8	20.7	6.4	2.8	5.0	10.1	7.8	4.5	0.8	-	-	
芸術とテクノロジー																								
	68.4	17.7	11.4	2.5	0.0	0.0	2.5	8.9	16.5	58.2	43.0	13.9	5.1	25.3	10.1	5.1	6.3	11.4	17.7	8.9	2.5	82.2	64.6	
	78.6	10.7	3.6	3.6	0.0	0.0	17.9	25.0	10.7	39.3	28.6	17.9	0.0	35.7	7.1	0.0	10.7	14.3	0.0	3.6	0.0	46.4	71.5	
計	71.0	15.9	9.3	2.8	0.0	0.0	6.5	13.1	15.0	53.3	39.3	15.0	3.7	28.0	9.3	3.7	7.5	12.1	13.1	7.5	1.9	-	-	

## 学生のアンケートにこたえる

コア教養科目を担当している三人の学生に、授業評価を見た感想をきいてみました。教員も学生にいいたいことがあるようです。(なお、教員の方には回収率と自由記述欄のデータもお見せしました。)

### 比較社会文化研究院教授 高野 信治 (「歴史の認識」を担当)

まずアンケートに対し回答した学生諸君に感謝します。ただ回収率64.2%は低くはないでしょうが、全員の意見を聞きたかったですね。出席率は欠席なし60.5%、欠席1回25.6%、もう少し努力でしょうか。私は歴史を学ぶことの意味を、歴史事実の理解にとどまらず、現代人としての社会考察につながるの理解に立ち、近年とくに話題にのぼる戦争・暴力と政治との関係の歴史性について、本来戦闘者である武士が「日本史」で政治の実権を握った時代があるのを、東アジア諸国との比較を念頭におき話したかったです。しかし「先生にとってもわかりにくい内容をなんとかがんばって伝えようとしてくださる姿がよかった」「頑張って伝えようと言われていたが、やはりなかなか理解しにくかった」という如く、私自身日頃の研究から背伸びして皆さんたちとと考えたため、少し欲張った内容となり十分に意図が伝わらなかったのは最大の反省点で、「そのことが大事だとはわかるが、同じことをやりすぎではないか」さらに「どういう目的の授業なのかよくわからなかった。漠然としていた」という厳しい意見が結果的にでたのでしょうし、授業内容の精選(16.3%)、説明の工夫(20.9%)を求める意見に反映されていますね。しかし私自身、現代人として歴史を学びながら(戦争や暴力の問題をめぐり)試行錯誤している姿をみてくれたなら、自己弁護でも一応よかったとも思います。ただ、授業理解修得のための努力は62.8%がほとんどしなかったといい、それを促す姿勢に欠けていたのは先ほどの意見にもあらわれているでしょう。授業の準備は20.9%が周到と感じており関連科目の中では高い数値ですが、これがかえってわざわざ34.9%が読みやすい板書を要望しているのも反省点です。なお成績評価の基準の明示を27.9%の人が要望していますが、大事なことは歴史を通していかに考えようとしているのかです。最後に、多くはないですが18.6%の人が教育者としての熱意を感じてくれたことに励まされたのを感謝します。

## 比較社会文化研究院助教授 石川 巧（「文芸と人間」担当）

前期、私はコア教養科目（文芸と人間）を担当し、「文学テキスト入門」という授業を行った。この授業は、文学テキストの読解を通して言語表現を構造的に理解するとともに、その理解を的確に文章化する能力を高めることを目的とし、小説を読むという行為、語りと描写の違い、日本の小説表現史の流れ、書き言葉と話し言葉の関係などについて概説した。また、言語表現の機能を理論的に把握するとともに、実際の小説をいくつか紹介して文学の楽しさを伝えようとしたところがけたつもりである。ある学生はアンケートの自由記述欄に「先生が本当に面白いと思っていることを学生に紹介して下さるといことは、学生にとっても興味深いことを学んでいるということだと思う。本当に楽しかった。授業で扱った本を読もうと思った」と書いてくれたが、こうした受け止め方をしてくれた学生がいてくれたことは非常に嬉しいし、これから同様の授業をしていくときの励みにもなる。

しかし、その一方で私に対しては、「肝心なことが何かわからない。授業の始めに、その日やることを具体的に説明してほしい」といった注文も寄せられている。私にとって授業というのは、黒板やプリントを駆使した「ものがたり」であり、ある意味での演劇性をともなっている。別に特別なパフォーマンスをすとか、面白おかしい話題で学生を惹きつけようとか、そういうことではなく、研究する主体としての自分を学生の前に開いていき、自分が考えている問題をいま現在という場所から語ることが大切だと思っている。文学は、自然科学のように普遍的な真実を探究する学問ではなく、「読む」という行為を通して個別的で一時的な光景に遭遇し、他者の世界を自分のなかに再構築する営みだから、何が肝心かということはひとりひとりが思索すればいいと思っている。要点を具体的に教える科目も必要だけれど、私が提供した情報をもとに、ひとりひとりが考える科目があってもいいだろうということである。……それにしても、みなさんは本当に「始めに、その日やることを具体的に説明」するような授業を期待しているのだろうか。それは楽しみにしていたドラマの結末を他人から教えられるようなものなのではないだろうか。

## 比較社会文化研究院助教授 鍋木 政彦（「人間と文化」担当）

コア教養科目「人間と文化」のアンケート結果を見て考えさせられたことを記したい。「人間と文化」は六人の教員が2回ずつ授業を行う総合科目形式の授業である。どのクラスの講義もすべて基本的には同じ授業がなされている。同じ授業がされているのにクラスによって違うアンケートの数値がでるとすれば、それは学部による学生の傾向を示すものと言えよう。

まず「授業を履修して良かったと思うこと」を尋ねる質問Eの数値にクラスによって非常にばらつきがあることがわかる。法学部・経済学部の学生を対象とするクラスでは、E系の回答率の合計が180であるのに対し、工学部を対象とするクラスでは99.9である。予想された通りではあるが、文系コア科目は文系のクラスからは評価されるが、理系のクラスからはひどく評価されない傾向があるようだ。（教員ごとに担当クラスが異なる他のコア科目のアンケート結果を見る場合、E系の数値の差はたんに教員の授業能力の問題というばかりではなく、クラスとの相性を考えなければならないのだろう。）もっとも、法学部・経済学部の学生からの評価が「高かった」とも一概に言えはしないのかもしれない。アンケートの回収率がもっとも低いのがこのクラスなのである。アンケートの回収率の低さを出席率の低さと解釈すると、そもそも授業に関心を持たなくなった学生もこのクラスには数多くいたのかもしれない。

記述式回答を見て気付くのは、評価の落差である。「これは大学の宝である」という言葉や、「1つのテーマにつき2コマ（3時間）では少ないように感じた。せっかく良い講義を行っているのに、時間が足りないというのは勿体無いと思った」という記述は、一部に改善の要求を含みながら、この講義の意味を良く理解してくれた学生からの言葉であると思う。それに対して、「この授業から得るものは何もないと感じた。意味のない授業だと思う。みんなこんなことを学びに大学にはいたわけじゃないので、この授業はなくしてほしい。ハッキリ言っていない」という記述には大いに考えさせられた。講義の拙さや工夫の足りなさという次元を超えて、「要らない」と決めつける精神に私は興味をもつ。おそらくこの感想を書いた学生の本音は別の記述にあった「この講義が将来何の役に立つのか分からない」という思いに近いものではないかと想像する。そもそもどんなものに「意味がある」のか、何が「役に立つ」のか。そういうことを考えるための基本的な素養を養うためにコア科目があると思うのだが、もはやそうした素養は必要なく、自分の知っている意味ある世界において役に立つ何かを教えてくれと一部の学生は願っているようだ。これはそのような学生を責めて言っているのではない。そういう学生諸君に対して講義をしなければならぬのだということに肝に銘ずるために記しているのである。